

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和 5 年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	鳥栖市立若葉小学校
-----	-----------

1 前年度 評価結果の概要	・先進的な取組を参考にしながら、1人1台端末を活用した授業改善を進めて3回の授業公開を行った。教師や児童の1人1台端末のスキルも向上し、授業改善の成果も上がっていると思うので、2年次の研究をさらに深めていく。 ・いじめが起こりにくい集団づくりに継続して取り組み、いじめの早期発見、早期対応、再発防止を心がけ、児童が安心して過ごせる学校づくりを目指していく。 ・児童の主体的な態度に対する承認・称賛を行うため、積極的・継続的に児童が活躍できる場や機会を増やしていく。また、家庭・地域にも連携を働きかけることで多方面からも承認・称賛を行い、児童の自己肯定感を高めていく。 ・特別支援学級在籍以外でも、通級教室に通ったり、普通学級で特別な支援を要したりする児童もいる。なお一層の特別支援教育の充実が必要である。そのために保護者の願いに寄り添い、一人一人の教育的なニーズに応じた指導・支援を行ってきたい。 ・不登校児童への対応は学校の大きな課題である。完全不登校、不登校傾向合わせて8名の児童を不登校として報告している。家庭的な問題や病気など原因は様々であり、特定はできないが、組織的な対応を行い、外部機関とも連携を組んでいる。しかし、すべてが解決には至っていない。改善に向けて継続して学校全体で組織的に取り組んでいきたい。
------------------	--

2 学校教育目標	「美しい心を持ち 自分から学び やりぬく子」の育成 ～ 元気いっぱい 笑顔かがやく 若葉っ子 ～
----------	---

3 本年度の重点目標	① 若葉授業と家庭学習習慣の定着による確かな学力の積み上げ ② 心の教育（道徳、人権・同和教育、学級活動）による自己有用感の高まりと豊かな心の育成 ③ 出番・役割の設定→承認・称賛の共通実践による自己肯定感の醸成、体力の向上 ④ 感染症に関する意識を高め、感染防止対策の共通実践 ⑤ コミュニティ・スクールの充実
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1)共通評価項目									
重点取組				中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートの成果指標を達成した教師90%以上を目指す。	・全校で共通の学習スタイルと学び方指導を明確にして、全学級で「若葉授業」に取り組む。 ・主体的・多面的に学ぶ力を伸ばすために、各教科の授業の中で児童相互に主体的・対話的に関わりあう「友達タイム」を活用する。 ・スキルタイムでは、基礎・基本を中心に書く活動を行う。内容は各学年で吟味し、段階的に活用力に関わる内容などにも取り組ませる。 ・校内研究でユニバーサルデザインの視点に基づいた学習環境・授業づくりを目指す。	A	・全教職員の共通理解のもと、若葉授業の柱である「友達タイム」「振り返り」を様々な場面で設定し、若葉授業の学習スタイルの定着を図っている。 ・各教科・各単元の学びに応じて、様々な形態で「友達タイム」を取り入れ、児童の主体的・対話的な学びの手立てとして取り入れている。約93%の児童が、友達タイムを通して自分自身の考えが広がったり深まったりしたと感じている。 ・スキルタイムでは、視写を中心に書く活動に取り組んでいる。約93%の児童が読む力・書く力が高まったと感じている。 ・全員参加での授業参観、及び研究協議会を2回行うことができた。ユニバーサルデザインの視点に基づいた授業作りについて研究を深めている。	A	・「若葉授業」「学習の約束」「スキルタイム」「ユニバーサルデザイン」に継続的に取り組んだ教師はほぼ100%であった。 ・全国学力学習状況調査や佐賀県学力調査の結果は概ね県平均並みの結果となり、おおむね目標を達成できた。 ・全員参加での授業参観、及び研究協議会を合計3回行うことができた。それに加え、12月8日の3学級公開授業を行い、県外からの参加者も多数あり、様々なご意見や指導助言により、研究内容が深まった。	A	・評価は妥当である。 ・全国学力・学習状況調査及び佐賀県学習状況調査の結果はおおむね目標を達成している。 ・具体的な数値目標をもって改善に取り組んでほしい。 ・学力調査のためだけの学習になってはいけな いが復習する機会として活用するのはよい。
	○タブレット端末等を使った授業実践による学力の定着	○タブレット端末を効果的に授業で活用している教師90%以上を目指す。	・タブレット端末を効果的に活用した授業づくりに取り組み、研究授業や公開授業を行っていく。	A	・7月26日と8月22日に校内研修を行い、1人1台端末の活用事例や昨年度の授業実践の紹介を行った。また、授業で活用できるアプリの演習を行った。 ・12月8日には公開授業を5クラスで行い、協議の場を持つ予定であり、今後の端末を活用した授業作りに生かしていきたい。	A	・学級担任はもとより、専科の教師も含め、授業を行う教師全てがタブレット端末を授業で効果的に使うことができている。 ・1月11日に職員全体での研修を行い、共有設定の活用方や来年度使用予定のデジタルドリルの使い方などの演習を行った。	A	・評価は妥当である。 ・メリットとデメリットを考え場面に即した効率的な活用をしてほしい。 ・家庭でタブレット端末を使用する際のルールを徹底してほしい。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○特別の教科道徳の授業で考えたことを生活に生かそうとする児童を90%以上にする。 ○相手が嬉しい、心地良いと感じる言葉や行動について考えることができる児童を90%以上にする。	・道徳の授業の終末に振り返りを行い、実践につなげる。 ・「ほめほめカード」や「がんばったねカード」に自他の良さを見つけ承認、称賛する。学校内だけでなく、地域や家庭にも参加してもらう。 ・「ふあふあ言葉」を每学期毎にクラスで考え、目に触れるところに掲示することで、意識して使っていくようにさせる。	B	・授業の後の実践につながるように、学年や個人でワークシートを工夫をしている。 ・「ほめほめカード」の紹介を屋の校内放送で行ったり、保護者からの「がんばったねカード」を校内に掲示したりするなど、承認称賛の輪を広げている。 ・各クラスで学期毎に、使いたい「ふわふわ言葉」を決め、積極的に使うよう意識付けを行っている。	B	・めあてに対する振り返りを行うことで、達成できていることと課題に気づき、自分を高めているとする意欲付けになっている。アンケートでも90%以上の児童が授業の中で考えたことを、生活の中でも気を付けていると答えている。 ・「ふわふわ言葉」について毎学期振り返りを行うことで、進んで使っていこうという気持ちが高まった。	B	・評価は妥当である。 ・道徳の授業を充実させて児童の心の教育を推進してほしい。 ・「ほめほめカード」は、子どもの自己肯定感を高めるのにとてもよい取り組みである。これからもこの取組を継続してほしいし、地域においても機会があれば積極的に褒めていきたい。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめは絶対に許さないという児童の意識、いじめが起こりにくい集団づくりに取り組み、教職員アンケート、保護者アンケートの「いじめの防止に努めている」であてはまると答えた割合が90%以上。	・Q-Uを実施し、その結果をよりよい集団づくりに意識した学級経営に生かす。 ・「いじめ・いのちを考える日」に、児童は毎月、保護者は学期毎にアンケートを行い、個人の悩みやいじめの早期発見・対応を学校全体で取り組む。	B	・Q-Uアンケートを1学期に実施し、学年間で共有分析、取り組みを行うことで、学年で子供たちを育てていこうという構えで学年経営に臨むことができている。 ・毎月1日のアンケートを通して、早い段階で児童の困り感を把握し、早期対応ができている。学級・学年で対応が難しい場合は、管理職を含めた対応を行っている。	B	・毎月1回のアンケートを通して、児童の困り感を早期に発見できるようにし、特別支援を含めた学年担任間で共有、相談、指導できる体制が取れていた。 ・学年だけの対応が難しい場合は、複数教員で当たる等、組織的なアプローチを行った。 ・保護者アンケート「いじめの防止に努めている」の項目は、87%で目標値をやや下回った。	B	・評価は妥当である。 ・いじめの早期発見及び早期対応も大切であるが、いじめが起きないような支持的な風土を学級や学校で作ることが大切である。 ・いじめをした側された側両方に指導と支援をしてほしい。いじめをされた子を守る環境づくりに努めてほしい。
	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていてと思う」と回答した児童生徒80%以上 ●◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上	・児童生徒の資質・能力を育む授業づくりに関する校内研修等を実施する。 ・各種体験活動では、児童生徒に活動の見通しと学びの振り返りを行う活動を仕組む。 ・キャリアパスポートを活用し、将来の夢や目標の実現に向けて計画的に取り組む。	A	・性の多様性に関することやソーシャルスキルトレーニングの研修等を実施した。 ・クラスによって振り返りの形式は異なるが、個人のために対する達成度を振り返る機会を設け、努力して自分自身を高めていこうとする意欲付けを行っている。 ・年度当初にキャリアパスポートの意義を児童と共有し、めあて達成に向けて、自分がどんな実践をしたかを見直す機会にしている。	A	・児童アンケートで「自分のことを認めてもらったり、ほめてもらったりすることは嬉しい」と答えた児童はだいたいを含めると97%であった。これからも承認称賛を続けていきたい。 ・児童アンケートで「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童は90%であった。 ・めあてに対する振り返りを折りに付け行うことで、達成できていることと課題に気づき、自分を高	A	・評価は妥当である。 ・「マナー教室」はよい取り組みである。手本となる友達のマナーを参考にして皆が礼儀正しい子どもになってくれればと思う。 ・地域での挨拶や言葉遣いがとてもよかった。マナー教室の成果だと思う。

●健康・体づくり	●運動習慣の改善や定着化	●授業以外で運動やスポーツを行う時間を増やすために、休み時間等で外遊びをする児童を85%以上にする。	・体育委員会で「クラスマッチ」を企画することで、運動をする機会を増やし、より参加人数を増やす。 ・学級で「元気タイム」を設定したり、雨の日には体育館を開放し、学年ごとに遊ぶ日を設定したりすることで体を動かす機会を増やす。 ・リレーカーニバルや水泳大会・なわとび大会などの体育的行事を行い、体力の向上を図る。 ・各クラススポーツチャレンジに積極的に参加できるような場の設定をする。	B	・朝の時間に元気タイムを実施することができた。 ・雨の日には、体育館の開放を体育委員会が中心となって企画することができ、体を動かす機会を増やすことができた。 ・リレーカーニバルや水泳大会(記録会)を各学年や各クラスで実施し、目標を持って体育の活動に取り組むことができた。 ・運動会を10月下旬に計画し、児童が活動しやすい環境で実施することができた。	B	・休休みに運動場に出て元気に遊んだり、雨の日でも体育館で運動をしている児童が90%を越え、元気に体を動かすことができている。 ・スポーツチャレンジに参加しているクラスも昨年より増え、クラス単位でも運動をしようという意識が高まって来ている。	B	・評価は妥当である。 ・今年度はコロナ禍明けであったがインフルエンザや新型コロナウイルスの流行が見られた。次年度も油断することなく感染対策を徹底しながら学校行事を推進してほしい。 ・スポーツチャレンジやマラソンクエストのように体力を向上させるための機会を増やす工夫をしてほしい。
	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康に良い食事をしている」児童生徒80%以上 ○朝食をとって登校する児童生徒80%以上	・生活状況調査、食に関する意識調査の実施する。 ・保健だよりを発行する。	A	・6月の食育月間に、「早寝、早起き、朝ご飯チェックシート」を全児童に取り組ませ、食に対する意識を持たせることができた。朝ご飯を毎日食べる児童は95%であったが、好き嫌いがある児童60%であったため、各学年で引き続き給食時の指導を行う。 ・5年生を対象に、食事・健康に関する意識調査を行った。「健康に良い食事をしている児童生徒」は79%と、目標指数に近い結果となった。	A	・「健康に良い食事」について考えさせるため、食に関する授業を3年生を対象に行い、好き嫌いをせず、バランスのよい食事をする意識を持たせることができた。 ・各クラスで指導を行っていたことで、高学年の残食はほとんどなかった。	A	・評価は妥当である。 ・高学年の肥満度が高く、視力も落ちている。これはゲームのやりすぎではないか？ゲームを制限する仕組みを学校でも考える必要があるのではないかと。 ・保護者にもスマホ等を使用することによる目への影響を資料等で呼びかけてみてはどうか。 ・登校時車で送ってもらい路上で乗り降りしている場面をよく見かける。安全な方法で送迎するよう保護者に周知徹底する必要がある。
	○望ましい生活習慣の形成	○自分から進んであいさつをしている児童の割合80%以上を目指す。	・1年間の生活目標を「あいさつにあふれ、落ち着きのある学校にしよう」とし、「合言葉」の「あかるく・いつでも・さきに・つづけて」の周知・徹底を図る。 ・あいさつについて学期ごとの具体的な目標を示す。 ・児童会・PTAが連携した朝のあいさつ運動を展開する。 ・年に2回生活点検を行い、生活習慣の見直しを行う。	B	・校内で自らあいさつをする児童、地域の方に明るくあいさつをする児童が増えてきた。しかし、個人差が大きいのが課題である。 ・定期的な生活点検だけでなく、日常的に児童と接する中で見てくる課題や良い点を共有する場を意図的に作ることで全職員で共有し、共通指導する体制ができつつある。	A	・児童会の提案、取組、教職員の意識付けにより自分からあいさつをしようとする児童が増えてきた。 どの子も明るい挨拶ができるようになってきた。 ・リモート朝会等の話の聞き方がよくなっている。話に対する反応もよく、校内での児童の様子も落ちついている子が多い。	A	・評価は妥当である。 ・子供たちは、地域の中でもよく挨拶をしている。挨拶をしない子もいるので目を見て挨拶するように心がけると返してくれるようになってきた。 ・学校と地域との交流を深められる機会が少しずつ増えてきたので嬉しく思っている。
	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●超過勤務時間が各月平均30時間以内を目指す。	・毎週金曜日を定時退勤日とし、それを逆算して仕事を効率的に行うような意識づけを行う。 ・勤務の効率化を行うために、職場環境の整備や学校行事の見直しを行う。	A	・職員から業務10%削減の案を募り、行事や取組の精選・廃止を行った。 ・職員会議や連絡会でも随時働き方改革を促した。その一環として6月より平日の施錠時刻を19時から18時30分に変更した。その結果昨年度と比較して超過勤務時間が減っている。	A	・毎学期ごとの労働安全衛生委員会の中で職員で労働環境について話し合い、改善を行った。 ・昨年度と比較して毎月の超過勤務時間は減少しており、効率的に業務ができている。 ・毎週金曜日の定時退勤日は11時30分を守れている。 ・勤務の効率化を行うために、職場環境の整備や学校行事の見直しを行う。	A	・評価は妥当である。 ・先生たちはたくさんの業務があると思うが、計画的に業務をこなして夜遅くまで居残りがないようにして、心身共に健康で笑顔で子ども達の指導にあたってもらいたい。 ・他の職業ではメンタル不調で休職をする人が多いと聞くので、先生方が仕事の量を減らすような工夫を管理職の方で推進してほしい。
	○業務改善・教職員の働き方改革の推進	○年次休暇取得の啓発	○長期休業中の目標年休取得日数の達成率80%以上を目指す。	A	・夏季休業中は、行事や研修を集中的に行う期間を設けることで、年休が取りやすくなった。 ・教務と連携し、長期休業中の行事や研修会の精選、集中的に行う期間を設ける。	A	・冬季休業中は、行事や研修を入れず年休が取りやすくなった。 ・県が目標にしている年間の年休取得日数14日以上は83%を超える達成率であった。 ・次年度も教務と連携し、長期休業中の行事や研修会の精選、集中的に行う期間を設ける。	A	・評価は妥当である。 ・楽しい職場の雰囲気づくりに努めてほしい。 ・PTAの行事についても見直しできるところは見直していきたい。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
★小中一貫教育の充実	★教科「日本語」の実践充実	★保護者・地域等に対する教科「日本語」の授業公開学級率80%以上 ★保護者等に対する教科「日本語」に係る情報を年間3回以上公開した学級率80%以上	・保護者や地域の方々の理解を図るために、全学級で年間を通して1回以上、授業参観等を実践する。 ・教科「日本語」の学習内容等を学級通信等で知らせる。	B	・教科「日本語」の保護者を対象とした授業公開学級率は70%であり、年間計画に基づいて計画的に実践できている。授業参観等で実践したクラスは学級通信等でお知らせできている。 ・各学年において、教科「日本語」の学習で積極的にタブレット端末を活用することができて	B	・保護者や地域等に対して、教科「日本語」の授業公開を実施した学級は80%で、おおむね目標を達成できた。 ・保護者等に対し、学級通信等で教科「日本語」に関する情報発信を行った学級は70%であった。	B	・評価は妥当である。 ・授業参観で授業公開が行なわれたのでよかった。 ・学級通信や画学校便りで情報発信があり、児童のがんばりが伝わった。
○主体的な態度の育成	○学級活動や学校行事等子どもの出番・役割の設定 ○学級会を主軸に置く特別活動の取組	○学校行事の準備や計画、進行などを児童にまかせ、できるだけ多く子どもの出番・役割を設定し、主体的な取り組みをしているという児童を90%以上にする。	・代表委員会を通して児童の思いを反映させた取り組みを行う。 ・集会や児童朝会、運動会の進行や準備などで子どもの出番・役割を設定し、主体的に活動に取り組ませる。 ・縦割り班での縦割り活動やあいさつ運動を年間を通して行い、児童に計画・立案・運営させる。 ・常に考える教育を推進し、小集団での話し合い活動を行う。	A	・運動会に向けた代表委員会では、盛り上げるための工夫を出し合い、児童の思いのこもった取り組みを実行することができた。 ・集会活動は図書委員会の図書館まつりや体育委員会の雨の日の体育館遊びなど、各委員会で児童が企画・運営する活動を行うことができている。 ・縦割り班での「あいさつ運動」では、6年生を中心に計画し、全児童が積極的に活動することができた。 ・運動会では、高学年を中心に準備や当日に児童の役割を設定することができた。	A	・6年生を送る会に向けた代表委員会では、5年生を中心に計画的に実施することができた。 ・児童朝会や縦割り班での活動などの行事に主体的に関わる経験をする中で、主体的に動く児童が見られるようになった。 ・保護者へ児童の頑張りを通信等で伝えることができたため、保護者アンケートで主体的な取り組みを学校がしていると感じる保護者が95%に達した。	A	・評価は妥当である。 ・中央渡り廊下の子供たちの掲示物を見ても伸び伸びと進んで活動している様子が感じられ、主体性が育ってきていることがよく分かる。子供たちの成長のために学校がいろいろな活動を通して体験や経験を積ませていることが分かる。
○自己有用感の向上	○学校・家庭・地域一体となって承認・賞賛する開発的な関わり	○自分や友達のよさに目をむけ、承認・称賛する取り組みを通して自己肯定感を高めていき、保護者アンケートで、承認・称賛することで温かな環境づくりに取り組んでいるという割合を90%以上にする。	・「ほめほめカード」や「がんばったねカード」に学校・地域・家庭で取り組み、本校2階のきらきら通りや昇降口付近に掲示すると共に温かな環境づくりに努める。 ・教師の積極的なほめほめカードの取組を推進する。 ・PTAとの連携を図り、心豊かになる教育講演会を実施する。 ・全学級、学級活動の中で、友達や自分自身に対する承認・称賛の取組を行う。	A	・昼の放送で毎日のように「ほめほめカード」の紹介をすることができている。 ・運動会では、保護者に我が子の頑張った姿を「がんばったカード」書いてもらい、掲示することができた。 ・学級で広げたい言葉を決めることで、温かい言葉が学級だけでなく学校全体に広がってきている。	A	・保護者アンケートで「子ども達を称賛・承認する取組を行い、自己肯定感を高めようとしている」との問いに93%の保護者があてはまると回答している。学校での取組が見える形で情報発信ができていると言える。 ・PTAと連携を図り、教育講演会を実施し、子育てに関する学びについて考えるきっかけとすることができた。	A	・評価は妥当である。 ・先生たちが子供たちのことを当たり前にできたことでも認めて褒めていることで、子供たちもどんどんやる気になって、家庭でもその様子がうかがえていることだろう。これからも継続してほしい。

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

- ・昨年度からの取組を生かしながら、1人1台端末を活用した授業改善を進めて12月に授業公開を行った。教師や児童の1人1台端末のスキルも向上し、授業改善につながっているのが次年度も活用を進めていく。
- ・毎月のアンケートや毎週の職員連絡会を活用し、いじめが起これにくい集団づくりに継続して取り組み、いじめの早期発見、早期対応、再発防止を心がけ、児童が安心して過ごせる学校づくりを目指していく。

・児童の主体的な態度に対する承認・称賛を行うため、積極的・継続的に児童が活躍できる場や機会を増やしていく。また、家庭・地域にも連携を働きかけることで多方面からも承認・称賛を行い、児童の自己肯定感を高めていく。

・来年度は特別支援学級の在籍人数が増える。特別支援学級在籍以外でも、通級教室に通ったり、通常学級で特別な支援を要したりする児童もいる。なお一層の特別支援教育の充実が必要である。そのために保護者の願いに寄り添い、一人一人の教育的なニーズに応じた指導・支援を行っていく。

・不登校児童への対応は学校の大きな課題である。完全不登校、不登校傾向の児童は、学校での人間関係や家庭的な問題や病気など原因は様々であり、組織的な対応を行い、保護者だけではなく外部機関とも連携を組んでいる。しかし、すべてが解決には至っていない。改善に向けて継続して学校全体で組織的に取り組んでいく。